

連結決算ハイライト

当上半期は、新型コロナウイルスの変異株の感染再拡大により一部の地域では景気の回復ペースが減速したものの、各国で経済対策やワクチン接種が進み、社会・経済活動は回復基調となりました。国内では、感染症患者が急増したことから、政府予算の投入や診療報酬の特例措置により、新型コロナウイルスに対応する医療提供体制の整備が進められた一方、回復基調にあった医療機関における検査・手術は一部で延期が見られました。海外では、感染再拡大の地域において、感染症患者の増加に対応するための医療機器の整備が進められました。

当上半期の売上高は前年同期比17.3%増の1,023億4千3百万円となりました。利益面では、増収効果に加え、売上構成の変化により粗利率が改善したことから、営業利益は前年同期比98.8%増の174億1千4百万円、経常利益は為替差損益が差益に転じたことから前年同期比119.0%増の179億9千万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比111.0%増の122億9千4百万円となりました。

<国内市場>

国内売上高は前年同期比15.9%増の651億6千4百万円となりました。市場別の取り組みを強化するとともに消耗品・サービス事業の強化に注力しました。また、前年同期に低調だった一部製品の需要が回復したほか、予算執行が延期・凍結となっていたITシステム商談が再開したことから、全ての市場で増収となりました。特に、官公立病院、私立病院市場では、政府予算を背景とした生体情報モニタ、人工呼吸器の整備もあり大幅増収となりました。

<海外市場>

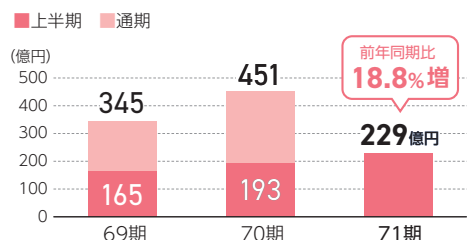
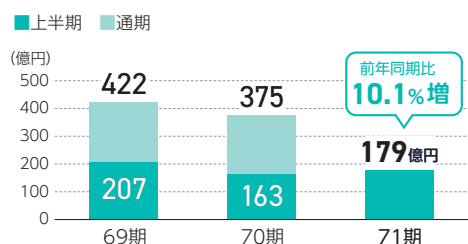
海外売上高は前期比20.0%増の371億7千8百万円となりました。シェア拡大に注力する米国における生体情報モニタの大口商談が売上をけん引しました。また、全ての地域において前年同期に低調だった一部製品の需要が回復したほか、感染が再拡大した中南米、インド、東南アジアにおいて生体情報モニタ等の需要が増加しました。

商品群別の概況 (連結)

① 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	診断情報システム、心電計群が二桁成長となりました。脳神経系群も好調に推移しました。心臓カテーテル検査装置群は現地仕入品の減収影響を除くと二桁成長となりました。
海外	脳神経系群が米国、中国で回復したほか、欧州で好調に推移しました。心電計群は、前年同期並みにとどまりました。



③ 治療機器

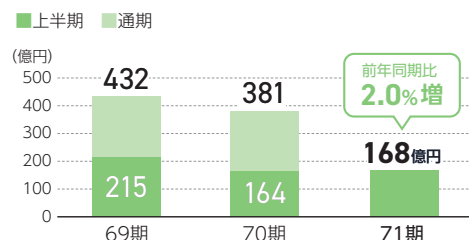
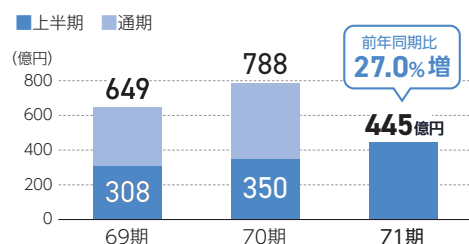
除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカー、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	感染再拡大を受けて人工呼吸器の需要が増加し、大幅増収となりました。医科向け除細動器、AEDも好調に推移しました。
海外	全ての地域でAEDの需要が回復したほか、除細動器もアジア州他、欧州で大幅増収となりました。人工呼吸器は前年同期の需要急増の反動により減収となりました。

② 生体情報モニタ

生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

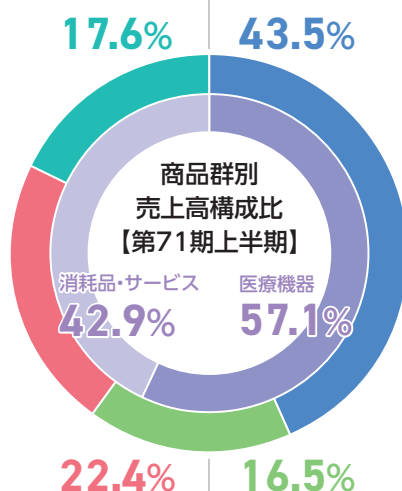
国内	感染症患者の急増に対応するため、送信機、ベッドサイドモニタが大幅増収となりました。臨床情報システム、センサ類など消耗品も二桁成長となりました。
海外	米国の大口商談が売上をけん引したほか、感染再拡大した中南米、インド、東南アジアで大幅増収となりました。欧州、中国、中近東は前年同期の需要急増の反動により減収となりました。



④ その他

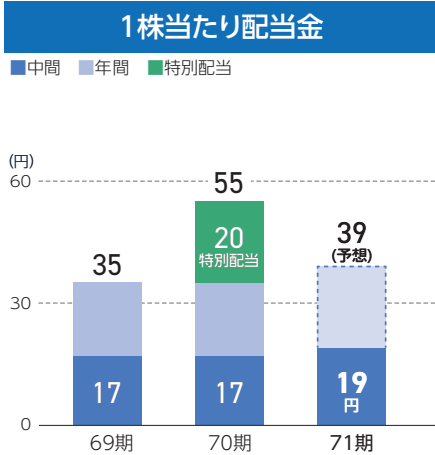
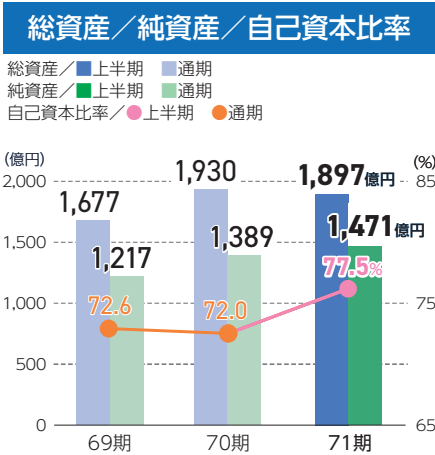
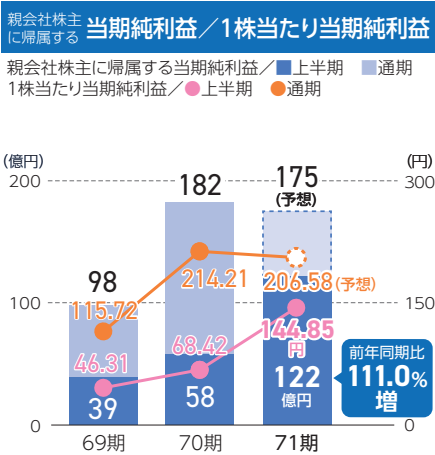
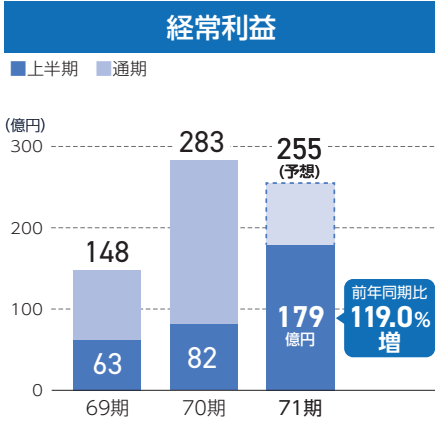
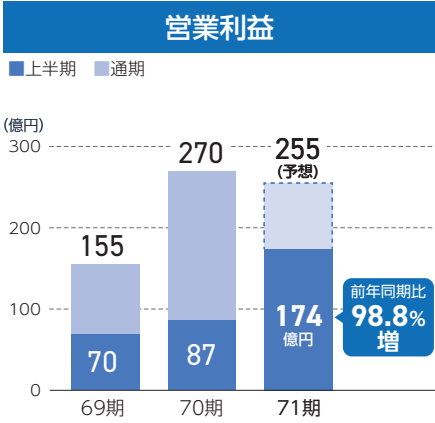
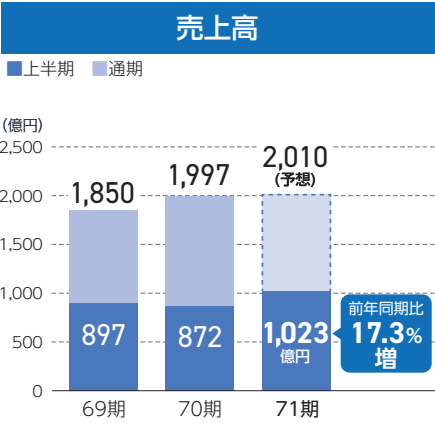
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、関連の消耗品、設置工事・保守サービスなど

国内	自社品販売の注力により、現地仕入品が減収となりました。検体検査装置は好調に推移しました。
海外	前年同期に需要・検査数の減少により低調だった血球計数器・試薬が、全ての地域で回復しました。



上半期連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



利益配分に関する考え方

優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人材育成など将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得としています。連結配当性向は30%以上を目標としています。

地域別の概況 (連結)

米州では、米国、中南米ともに二桁成長となりました。米国では、生体情報モニタの大口商談が売上をけん引したほか、中南米では、ブラジル、ペルー、チリが好調に推移しました。欧州では、一部製品の需要は回復したものの、大幅増収となった前年同期の反動を補うには至らず、減収となりました。アジア州他では、インド、タイ、マレーシアでの売上が倍増し、中国、ベトナムも好調に推移しました。

